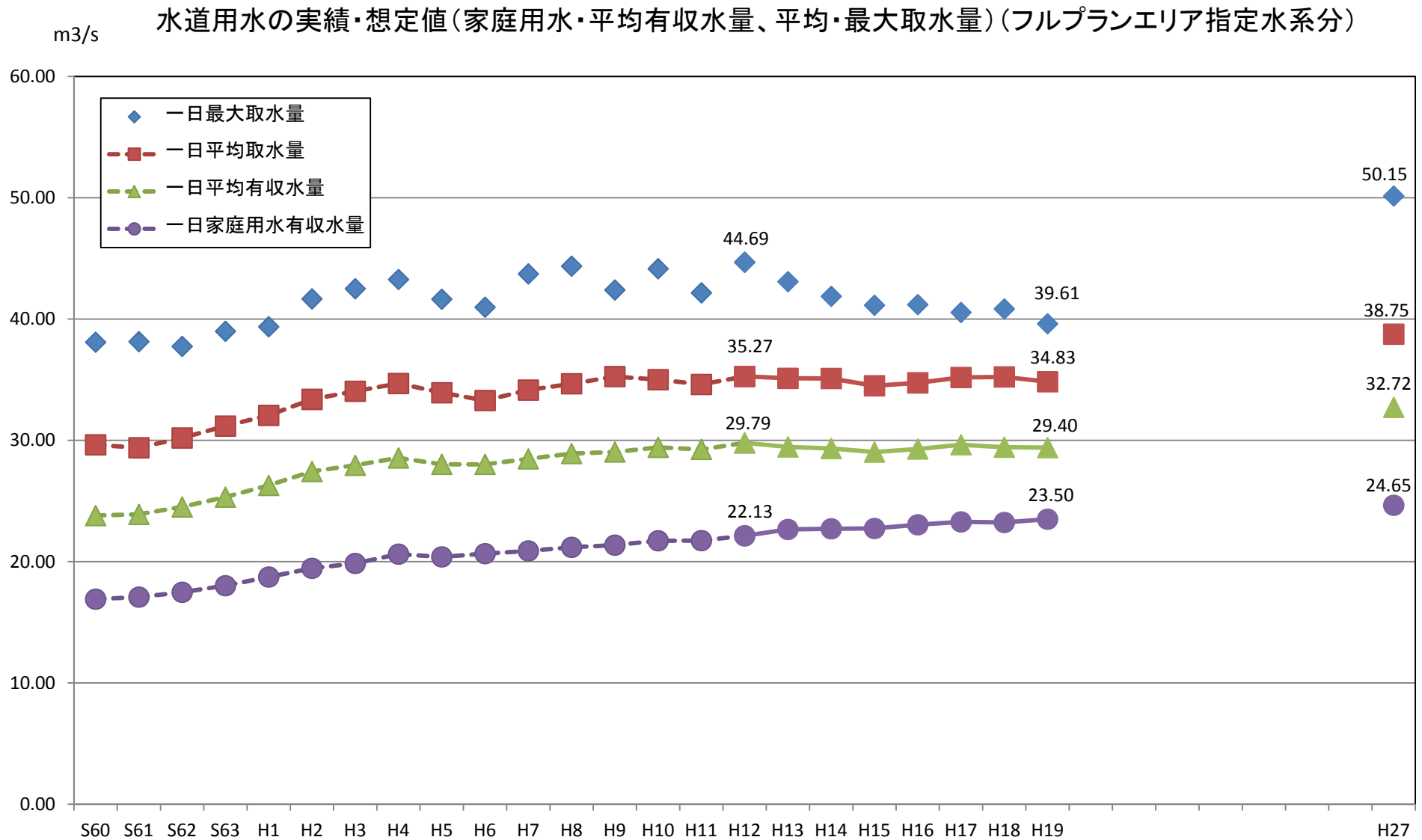


(注)実績値、想定値ともに長野県、岐阜県は上水道、簡易水道、愛知県は上水道、簡易水道、専用水道、三重県は上水道の数値を合計したもの

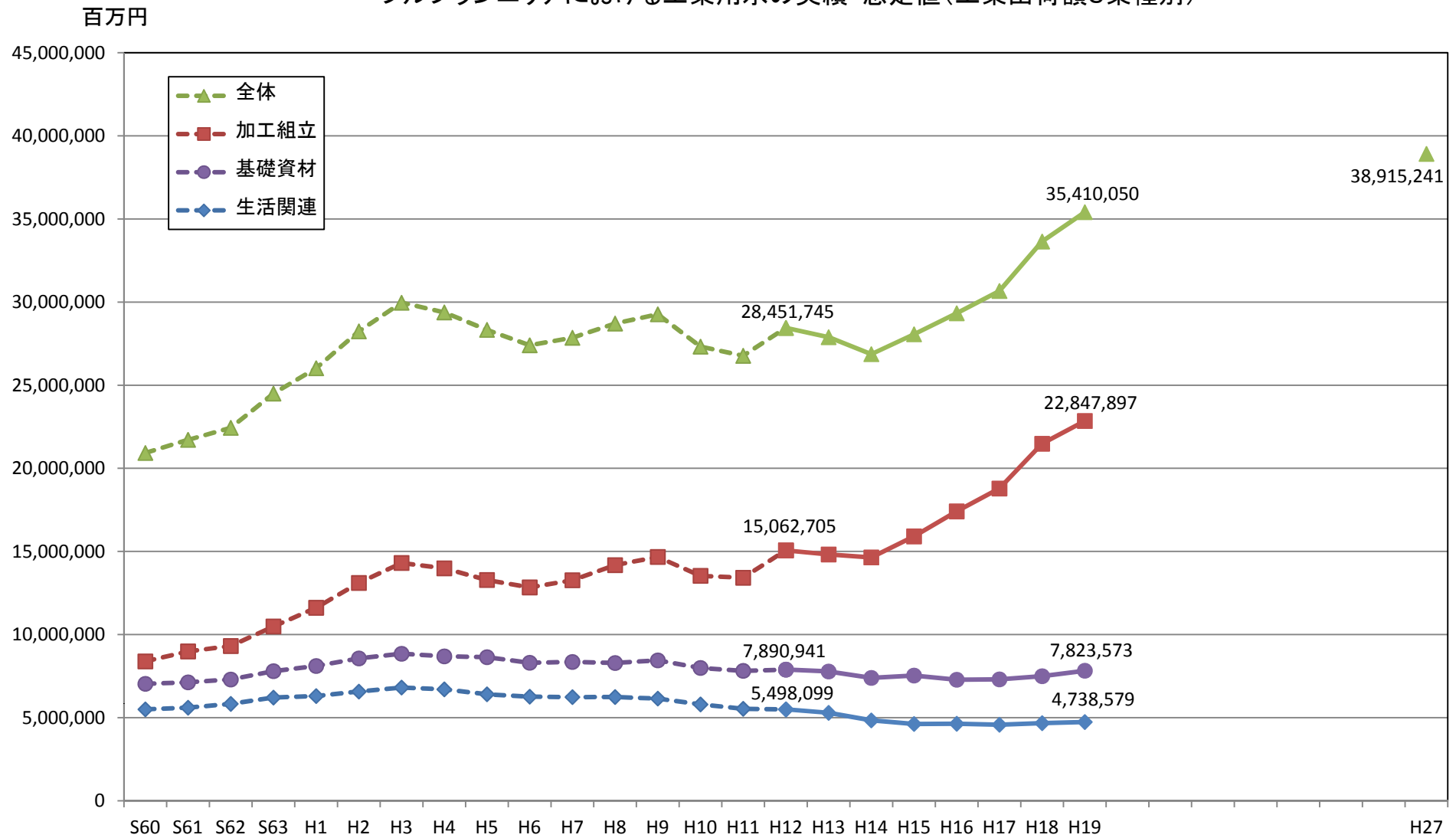
定期点検とりまとめ(案)(参考データ)



(注)実績値、想定値ともに長野県、岐阜県は上水道、簡易水道、愛知県は上水道、簡易水道、専用水道、三重県は上水道を合計したもの
 (注)一日家庭用水有収水量、一日平均有収水量、一日平均取水量については、実績値、想定値とも各年度の一日最大取水量の総量と指定水系分の比率により推計

定期点検とりまとめ(案)(参考データ)

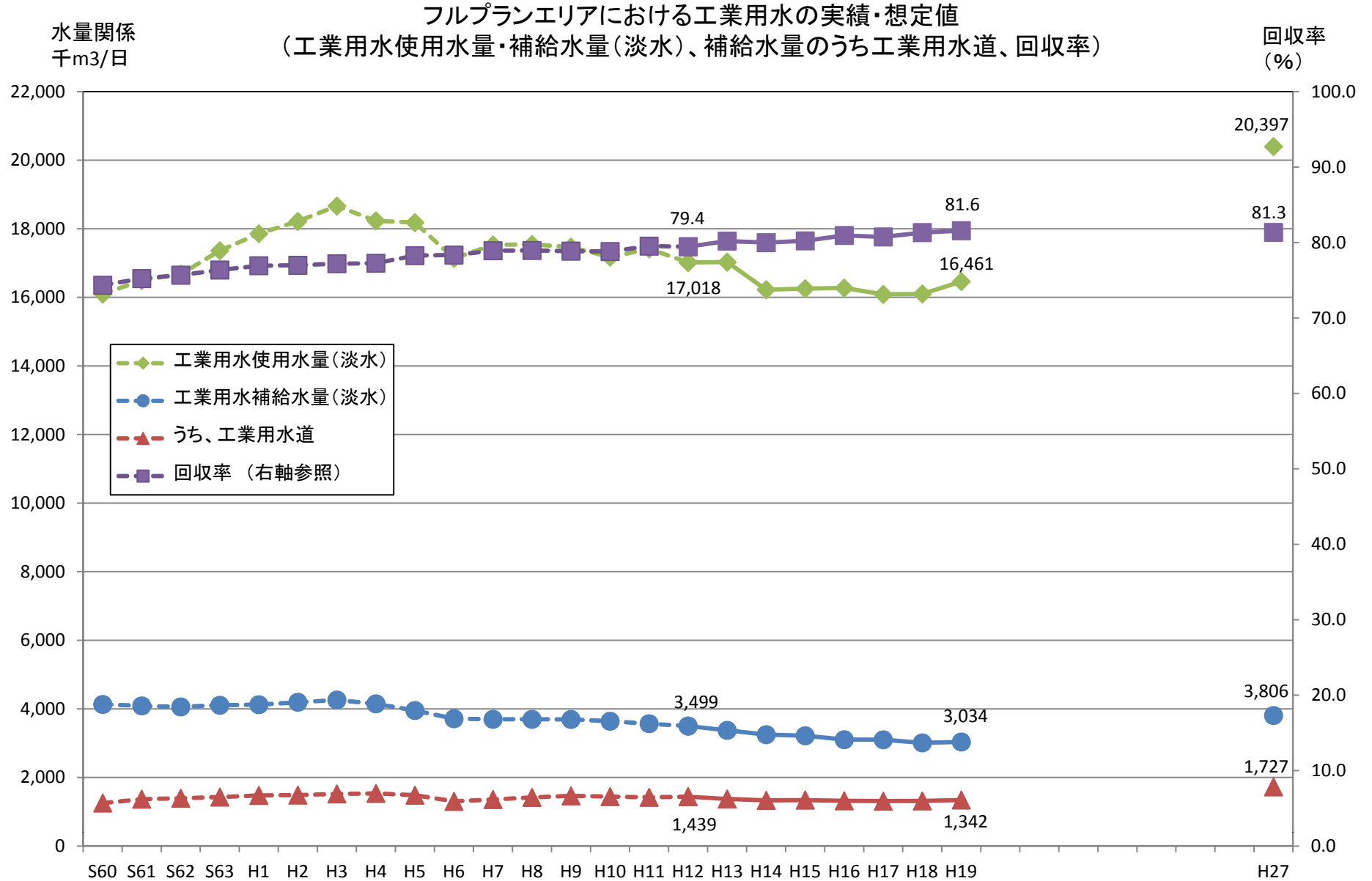
フルプランエリアにおける工業用水の実績・想定値(工業出荷額3業種別)



(注) 基礎資材、加工組立、生活関連の3業種の数値は需要実績調査の3業種の割合から推計したもの

想定値

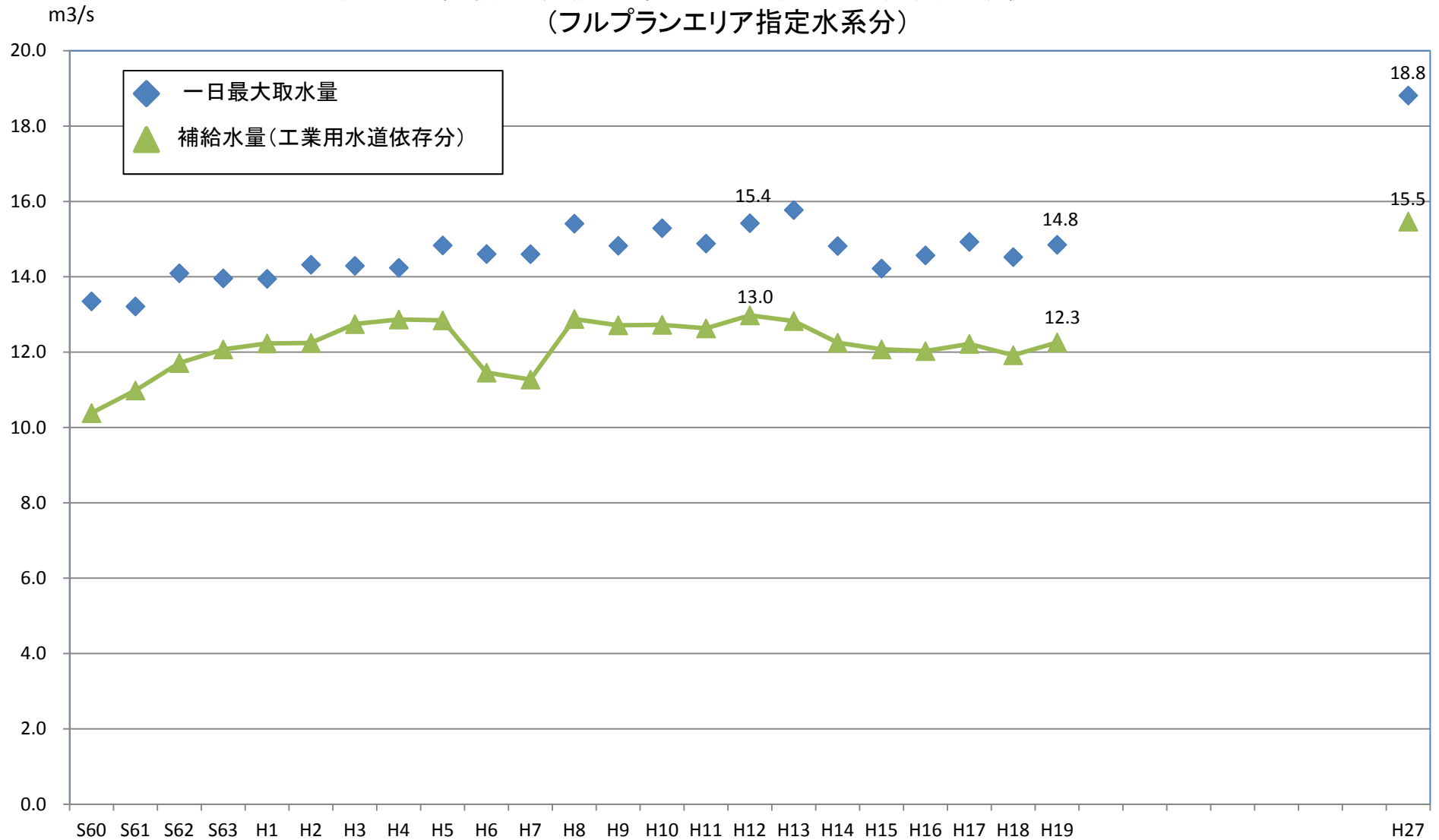
定期点検とりまとめ(案)(参考データ)



(注)実績値、想定値ともに長野県、三重県は30人以上事業所ベース、岐阜県は全事業所ベース、愛知県は4人以上事業所ベースの数値

定期点検とりまとめ(案)(参考データ)

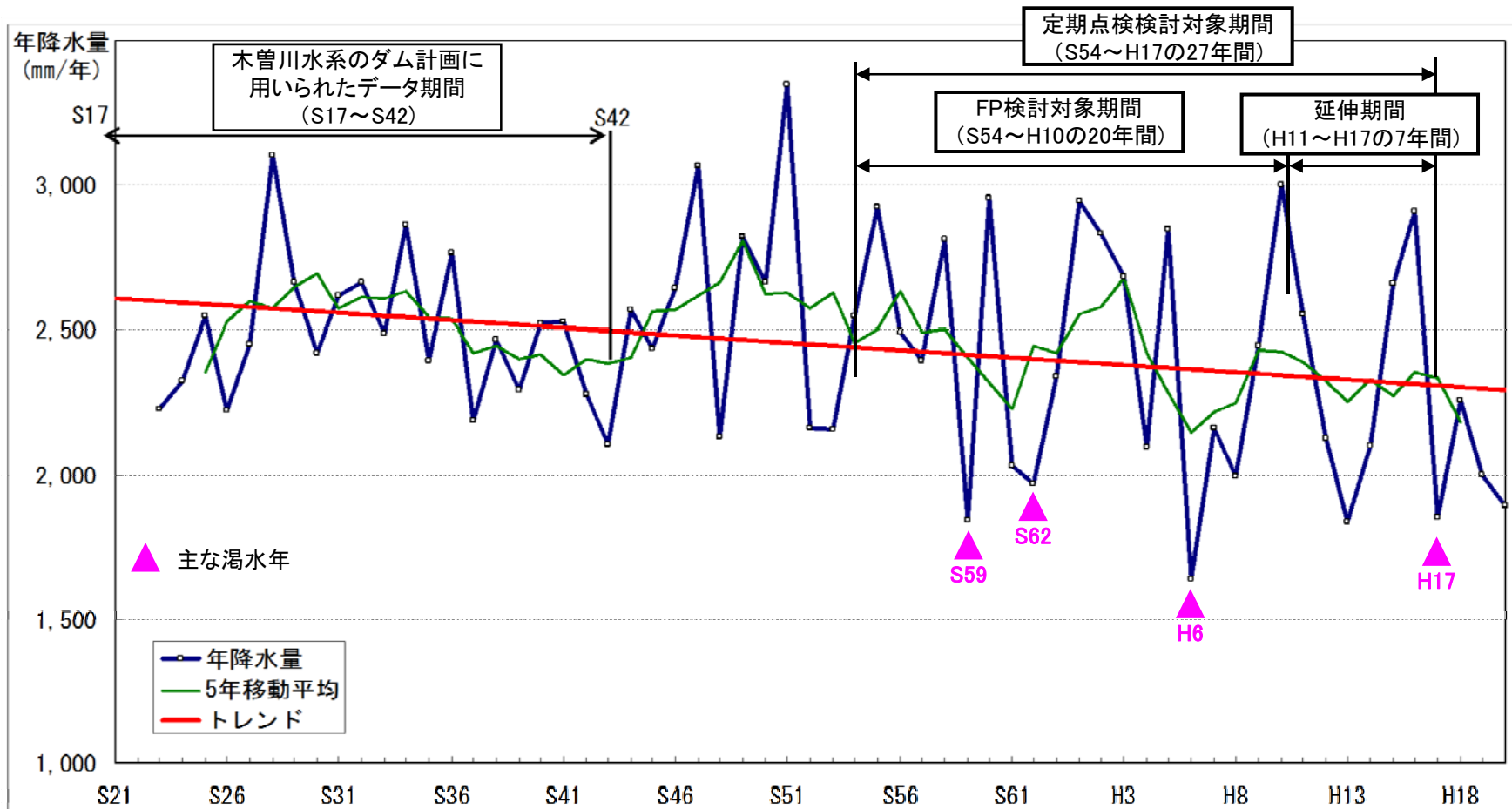
工業用水の実績・想定値(補給水量(工業用水道依存分)、最大取水量)
(フルプランエリア指定水系分)



(注) 想定値は長野県、三重県は30人以上事業所ベース、岐阜県は全事業ベース、愛知県は4人以上事業所ベースの数値
工業用水補給水量(工業用水道依存分)については、実績値、想定値ともに各年度の一日最大取水量の総量と指定水系分の比率により推計

定期点検とりまとめ(案)(参考データ)

- 木曽川水系における年降水量は、近年は少雨の年が多く減少傾向であり、年による変動幅が増大
- 計画当時は昭和17年～昭和42年の流況を基に供給が可能と見込まれる水量を設定
- 平成16年の全部変更においては、近年の20年(昭和54年～平成10年)に2番目の渇水年の流況を基に安定供給能力を設定
- 定期点検においては、データが整理可能な平成11年～平成17年の7年間の流況を延伸



雨量観測所: (木曽川) 数原, 西野川, 福島, 王滝, 三浦, 三留野, 福岡, 笠置, 黒川, 高根, 胡桃島, 湯屋, 下呂, 大原, 小川, 和良, (神洲), 三川, (上麻生)
 (長良川) 大鷲, 那比, 太之田, 中切, 洞戸, 葛原, 八幡(気), 美濃(気), 岐阜(気)
 (揖斐川) 徳山, (春日), 金原, 多良, (牧田), 揖斐川(気), 樽美(気), 関ヶ原(気)

* () についてはH11より廃止

定期点検とりまとめ(案)(参考データ)

- 定期点検においては、平成11年～平成17年の7年間の流況データを延伸し、現行フルプランの近年20年を合わせた27年間を対象として供給能力を検証
- 対象27年間の評価においても、最大渇水は平成6年、2番目は昭和62年であり、現計画と同評価
- 延伸7年間最大の渇水である平成17年は5番目の規模であるが、牧尾ダム、岩屋ダムの供給可能量では、20年に2番目の渇水年と同程度又はさらに厳しいと評価

(単位: m³/s)

事業名・水源名	計画当時の供給可能量	現行フルプラン(H16)		定期点検		
		安定供給可能量(2/20)	近年最大渇水時供給可能量(H6)	27年間の評価		(参考)延伸期間の最大渇水時供給可能量(H17)
				(2/27 : S62)	(1/27 : H6)	
徳山ダム	6.60	4.24	2.44	4.24	2.44	6.60
三重用水	0.86	0.65	0.34	0.65	0.34	0.52
長良川河口堰	22.50	16.95	6.89	16.95	6.89	22.50
阿木川ダム	4.00	2.28	1.64	2.28	1.64	3.24
味噌川ダム	4.30	3.61	1.76	3.61	1.76	4.30
木曾川総合用水(岩屋ダム)	39.56	17.41	7.91	17.41	7.91	12.26
愛知用水(牧尾ダム)	10.31	7.21	5.46	7.21	5.46	7.32
その他事業	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02
自流	13.58	13.58	13.58	13.58	13.58	13.58
地下水	11.15	11.15	11.15	11.15	11.15	11.15
その他	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23
合計	113.11	77.33	51.42	77.33	51.42	81.72

(注)

- 1: 現行フルプラン(H16)における「安定供給可能量(2/20)」及び「近年最大渇水時供給可能量(H6)」、定期点検における「27年間の評価(2/27 : S62)」、「27年間の評価(1/27 : H6)」及び「(参考)延伸期間の最大渇水時供給可能量(H17)」とは、一定の前提条件の下でのシミュレーションをもとにした供給可能量である。
- 2: 現行フルプラン(H16)における「安定供給可能量(2/20)」とは、近年の20年に2番目の渇水年において、河川に対してダム等の水資源開発施設による補給を行うことにより、年間を通じて供給が可能となる水量のことである。
- 3: 現行フルプラン(H16)における「近年最大渇水時供給可能量(H6)」とは、近年最大の渇水であった平成6年において、河川に対してダム等の水資源開発施設による補給を行うことにより、年間を通じて供給が可能となる水量のことである。
- 4: 定期点検における「27年間の評価(2/27 : S62)」とは、27年間に2番目の渇水年となる昭和62年において、河川に対してダム等の水資源開発施設による補給を行うことにより、年間を通じて供給が可能となる水量のことである。
- 5: 定期点検における「27年間の評価(1/27 : H6)」とは、27年間に1番目の渇水年となる平成6年において、河川に対してダム等の水資源開発施設による補給を行うことにより、年間を通じて供給が可能となる水量のことである。
- 6: 定期点検における「(参考)延伸期間の最大渇水時供給可能量(5/27 : H17)」とは、延伸7年間の最大渇水年において、河川に対してダム等の水資源開発施設による補給を行うことにより、年間を通じて供給が可能となる水量のことである。
- 7: 現行フルプラン(H16)における「安定供給可能量(2/20)」は、木曾川及び長良川について、これらの河川の2/20に相当する昭和62年度を想定して計算している。揖斐川の徳山ダムについては、愛知県分は木曾川等との全体の水利利用の関係から木曾川等と同様の昭和62年度を使用しており、2.84m³/sとなる。岐阜県分は、揖斐川の2/20に相当する昭和59年度をもとに、近年の降水量の変動等の地域の実情を踏まえ、1.40m³/sとなる。
- 8: 「その他事業」とは、岐阜県の大ヶ洞ダム、岩村ダム及び中野方ダムである。
- 9: 「その他」とは、ダム等の水資源開発施設、自流及び地下水以外により供給される水(湧水等)である。
- 10: 三重用水については、水資源機構による試算値である。
- 11: 四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

・シミュレーションによる試算値